

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

春号

2023 No.22

ご自由にお取りください



特集

愛すべき南予アルプス

インタビュー 「青のありか」 画家 吉田 淳治

SPECIAL インタビュー

「作品づくりを通して意味のある人間になりたい」 漫画家 清家 孝春

愛媛県美術館開館25周年記念

大竹伸朗展
Shiro Ohnaka
2023.5.3 [水・祝] - 7.2 [日]

C o n t e n t s



宇和島市保田公園の山桜 (撮影/北濱一男)

01 エッセイ「美味礼讃」 宇神 雪斎

02 インタビュー 画家 吉田 淳治「青のありか」



05 撮り歩きなんよ 上光満の桜 写真家 北濱 一男

06 特集「愛すべき南予アルプス」

08 手描き山マップ「南予アルプス最高峰高月山のしおり」 森下 嘉晴

10 ふるさとを知ろう、親しもう、伝えよう 毛利 弘子

12 鬼が城山系は心身ともにリラックス効果絶大! 山下 武

14 南予アルプスの境界争い 伊達博物館 志後野迫 希世
松野町教育委員会 亀澤 一平

16 愛媛県美術館開館25周年記念 大竹伸朗展

20 SPECIAL インタビュー 漫画家 清家 孝春
「作品づくりを通して意味のある人間になりたい」

23 南予の祭り歳時記 -松野町目黒- 愛媛県歴史文化博物館 大本 敬久
山の神の祭り 専門学芸員

24 文ちゃんどつぼの予土線のあの人に会いたい4 (番外編)

26 医療 タバコの健康被害 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆

27 食めぐり 春野菜「じゃがいも」について 管理栄養士 和田 広美
柑橘ソムリエ シーフードマイスター

28 お気楽 俳句 小野 更紗 絵/律川 エレキ おすすめ本/岩崎書店

29 斗酒百篇 / 4コマ漫画「きさいやくん」



[スクラップブック #71 / 宇和島]
2018-21年 33×85.5×40.4cm 574ページ / 17kg
Photo: 岡野圭



表紙 / 「ぼかぼかな日」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ 愛媛県宇和島市出身
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす
現在は個展やイベントへの出品等で活躍中

つなぐ春号 No.22

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21

0895-23-7000

年4回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

編集・構成 / 業務推進部 広報文化室 川尻純滋

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

きみが何を食べているか言ってみたまえ。きみが何者であるか言い当ててみせよう。フランスの美食家ブリア・サラヴァンの『美味礼讃』をぜひぶん昔、面白く読んだが、今回は私なりの美味礼讃を書く。

書けばきりがないので、魚に限定するが、あくまで「個人の感想」である。刺身でいちばん好きなのはヨコエである。マグロの幼魚で、九州ではヨコエという。これを食べると、宇和島に生れてよかったと思う。

冬は、なんといってもホータレ（片口鯛）の刺身である。キビナゴは珍しくないが、近年、ホータレはあまり見かけない。寒ボータレは、「七度洗えば鯛の味」などというが、鯛の刺身よりうまい。

鯛は尾頭付きの塩焼きに限る。すまし汁もよい。刺身はあまり味がないので、鯛めしは、よくできた食べ方である。大昔、海賊が火を使えない舟の上で食べたのが始まり、という伝承がある。藤原純友が日振島を根拠地していたという説を信じるとしても、これはあり得ない話である。

鯛めしは戦後に作られたもので、追手通りの横丁にあった「丸水」が元祖という。「今勝」が創始者という話も聞いたことがある。「今勝」は浄満寺（本町通り）の、道路を隔てた向かい側にあったが、廃業して久しい。

最近、津島町岩松が郷土料理の六宝に力を入れているが、戦後まもなく岩松に住んだ美食家の獅子文六もこれを気に入っている。鯛めしのルーツは、この六宝であろう。真鯛より甘鯛（尼鯛）の方がうまい。岩松



さつま汁。郷土料理ではこれがいちばんうまい！ 写真：かどやHPより

美味礼讃

宇神 雪齋

といえば、白魚のおどり食いであるが、私は苦手である。

鯛そうめんは、鯛よりコズナ（赤甘鯛）の方がうまい。「コズナ、イトヨリ海の芸者」といつて見た目も美しく、味もよいがイトヨリは身が柔らかすぎるので、鯛そうめんには向かない。

冬の脂の乗った肉厚の太刀魚は塩焼きもよいし、巻き焼きもうまいが、煮つけにして食べ残しを一晚置いておくと、煮汁が煮凝りになる。熱いご飯にのせて食すると、なかなか美味である。

鯛に戻るが、めざしもうまい。ウルメイワシよりホータレがよい。よく乾燥した、噛むとパキンと音がするようなものが好みで、冷や飯にも合うし、「いもとかいぼし」といって、昔は白イモの蒸したものと一緒に主食がわりに食べた。めざしとはいうものの、近年は串を目ではなくて顎に刺している。串に刺さず、そのまま乾燥したものは粗悪品である。もし、目に刺しためざしを見つけたら、即刻買っべしである。

鯛といえはイリコ（煮干し）である。大羽のイリコはそのまま食べてもうまいが、味噌汁のだしにはこれである。鯉の削り節は麦味噌には合わない。小さな幼魚はちりめんじゃこ・シラスで、伊方町などがシラス并を名物にしているが、食感が悪いので食べない。ちりめんじゃこを大根おろしと一緒に食べる方がうまい。

宗田鯉の削り節は、味が濃厚で香りもよく、江戸前の蕎麦には必須である。宇和島ではメジカといって、茹でたものを食べる。

私はこれをじっくりと焼き、身をほぐし、ツイモやキュウリの酢の物にする。レモン、すだち、ゆずなどをしぼってかけると、実に爽快な味である。

タコはマヨネーズで食べる。イカは刺身がいちばんだが、フライにしてもうまい。私は貧しい庶民なので、冬は大根と一緒に煮たものがこのうえない御馳走である。

宇和島では刺身醤油というコールドールのような醤油で刺身を食べるが、魚の本来の味を損なわない薄口醤油がよい。関サバ・関アジを別府で食べたときは、非常に新鮮なので、塩で食べた。その味はいまもって忘れ難い。

わざびは、現在はチューブのものが主流になったが、粉わざび（西洋わざびを粉末にしたもの）がよい。お猪口に入れて水で溶き、辛味が揮発しないようにお猪口を逆さまにして食卓に置く。これを見ると幸せな気分になる。



宇神 雪齋 うがみせつさい

作家・音楽評論家

小説は『水のゆくえ』（角川書店）『ヴァルハラ城の悪魔』（講談社）など。

近年は『宇和島藩』『伊予吉田藩』『幕末の女医楠本イネ』『宇和島伊達家の女性たち』などの歴史書がある。

近著は『三島由紀夫 VS 音楽』。

本名 / 神應幸男

「青のありか」

画家 << YOSHIDA JUNJI 吉田 淳治

4月29日より畦地梅太郎記念美術館で吉田淳治展「青のありか」が開催されるので、アトリエに吉田淳治さんを訪ねた。

宇和島市内で画材販売や絵画教室を営む「べにばら画廊」の長男として生まれた吉田さんにとって、絵を「観る」「描く」ということは生活の一部だった。そして何より影響を受けたのは、吉田さんのいう「そこに集う様々な分野の、一言あるおもしろい大人たち」との交流だった。

高校を出て、東京の美術学校に入ったものの学生生活に馴染めず、早々に独り創作活動を始めた。対象となったのは、初めて見る都会にあふれる「人」であり、またそれに抗う自我の表出でもあった。しかし、描いては潰しの日々が続き、一向に作品が残らない。この頃の事を自身のエッセイ集「風景を拾う（二十歳の自画像）」の中で「危ついでに立たされたギリギリの毎日」と表現している。そして、このギリギリの生活に在京7年で区切りをつけた。

帰郷しアトリエを構え、美しく豊かな自然に囲まれて描くうちに、それまで影響を受ける題材としての「人」が急にいなくなつたように思えた。そうして、徐々に風景に影響

された抽象的なカタチが生み出されるようになっていった。

作品には様々な色が使われているが、吉田作品を象徴する色といえば「青」。その「青」について聞いた。「僕の作品の中の『青』は変化しています。『青』は空間性が強いというか、重量感がないと思うんです。例えば空の青なんかもそうですが、何か浮遊するものを描きたいのかな？ と思います。ただ、そこを指して描いているというわけではなく、自然とそうなってきたんです。（吉田さんの作品制作は、下絵や計画を立てずに、そのときの新鮮な感覚を大切にしながら描いてゆく）」

また、吉田作品には水彩もあるが、中心は油彩だ。コントロールの難しい重い油絵の具で、浮遊感のある「青」の世界を精緻な筆使いで表現している。作品を遠目から観ると、一見単調な彩色のようにも見えるが、近づいてよく観ると、筆の刷毛目がいろいろな表情をもつて見えてくる。

「水彩画は、数年に一度集中的に描きますが、日本人である僕の肌にあっているというか、一気呵成に描き上げます。しかし、油彩は難しい。でもその難しさが僕を駆り立ててやまないのです。もう何十年も描き続けているのに、何の進歩もないような

気がします。常に自分が新鮮に感じる、いいカタチや色が生まれてくるのを待っているのですが、そんなことは滅多にありません（笑）」

畦地美術館での展示に間に合えばと制作途中の大作を眺めながら……「昨年、仙台の展覧会に出した10点ほどの油彩作品は、もつと抽象的だったのが少し変わってきています。おそろくは、これまで自然の空間から純粹に探ろうとしていたのが、今、この世の中に暮らして感じている奇立ちやズレを含め、培ってきた精神性というか、人間的なものが作品に現れてきているような気がしています。それはひよつとすると、少し前に愛媛新聞のコラム『四季録』を毎週連載したりして、言葉と密接に関わつた影響があるのかもしれない」と興味深い話をしてくれた。

吉田さんは、自身のエッセイ集を始め前出の四季録、本誌の巻頭エッセイなどを執筆し、その文才は広く知られているが、文章が描く絵に、絵がまた文章に影響を与えているとしたら、あの麗筆もつなずける。

70歳を過ぎて体力的な変化も含めて、残りの人生を身体ごと考えるようになってきたという吉田さんだが、最後にこんなことを話してくれた。「昔から思っていたのは、早世した天

才的な絵描きより、例えば80歳くらいまで生きて、マンネリせずに描き続けた絵描きの方が、一枚うわてと思つてきました。僕も一日の内、筆を執るよりも作品を眺めている時間の方が長くなったような気がするけど、それが年齢からきているのか、そういう流れなのかは分かりませんが、しかし、かつてないほどに大作を続けてやっついて、今からも変わらず、自分なりに常に新鮮なものを求めて行こうと思つています」

吉田さんが東京からふるさと宇和島に帰ってきてスタートさせた創作活動も、50年を迎えようとしている。絵はもちろんのこと、執筆や音楽にも才能を発揮するマルチな人だが、これからも吉田さんにしか感じないモノを描き続けてくれるに違いない。今回、地元では久しぶりの大作による展覧会。これまでの吉田作品をご覧になられている方は作風の変化を、始めてという方は、ぜひこの機会に吉田ブルーの世界に浸つてみては如何だろうか。

インタビュー・構成／川尻純滋



吉田 淳治 1951年 宇和島市に生まれる。

1970～76年 東京にて制作。以後、宇和島市に制作の拠点を移し、東京、名古屋、神戸、新潟、長野、愛媛など、各地にて個展を中心に活動。また、仙台、オランダ他、グループ展にも参加。

公式ホームページ <https://junji-yoshida.webhop.info/>

青のありか 吉田淳治展

2023年4月29日(土) - 7月10日(月)

場 所 畦地梅太郎記念美術館
愛媛県宇和島市三間町務田 180-1
「道の駅みま」併設 松山自動車道三間IC 傍

開館時間 AM9:00 ~ PM5:00 (入館受付 PM4:30 まで)
入 館 料 大人 300 円 65 歳以上 200 円 高・大学生 200 円
※中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料

◇対 談 4月29日(土) PM3:00 ~ 4:00
吉田淳治 × 原田光 (美術評論家・元岩手県立美術館館長)

観覧無料※入館料が必要です。

原則予約制ですが、当日の参加も可

予約締切は 2023 年 4 月 15 日 (土)

お申込先 畦地梅太郎美術館 (TEL/FAX : 0895-58-1133)



BV-12 145.5×97.0cm



2022年6月「佐々木美術館9周年芸術祭」(仙台市)に招待され、青のシリーズの作品が展示された部屋で話す吉田さん。



2023.2 アトリエにて

新刊「ゆらぐハコ Trembling Box」

愛媛新聞に1年間に亘って連載され好評を得た52編のコラム「四季録」に加筆し、自ら撮影したモノクロ写真22点を挿入したもの。

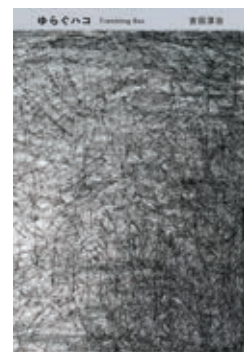
四六判 195頁 定価1,500円(税別) Gmagazin 出版社

他に画集3種、オブジェ・エッセイ集の刊行物がある。

これら書籍については、べにばら画廊までお問い合わせください。

(〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-6 Tel/Fax 0895-22-1104 Mail benibara.art@gmail.com)

また、畦地梅太郎記念美術館での展覧会期中は会場でもお求めいただけます。



撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



2019年4月4日撮影

うえ みつ ま 上光満の桜

上光満の桜は、およそ20年ほど前に上光満の人達によって植えられ、満開になると県道57号の梅林口バス停辺りからも観ることが出来ます。

梅林口から光満川を渡り、予土線の高架をくぐり、道なりに進むと泉ヶ森のふもとに桜が見えてきます。集落に入り、集会所前から5分ほど歩けば到着です。

桜の種類は、河津桜50本、ソメイヨシノ400本、しだれ桜20本、牡丹桜が50本ほど植えられていて、おまけに山桜も1本あります。

地域の方々の管理がよく、毎年見事に咲く桜山になっていて、2月上旬ころから河津桜が咲き始めて4月中旬頃まで楽しめます。



2019年4月4日撮影



北濱 一男 写真家

1945年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめが、本格的な写真歴は約20年。現在は、奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事し毎月奈良へ通う。「撮り歩きなんよ」(ブログ) <http://uwatu.blog135.fc2.com/>



愛すべき南予アルプス



撮影 / 北濱一男

宇和島市の市街地は、海からわずかな距離で千メートル級の山々（鬼ヶ城山系）がそびえ立ち、その山頂からは、雄大な海が展望できる全国的にも極めて珍しい地形として知られ、地元では「鬼ヶ城（おにがじょう）」と親しみを込めて呼ぶ。

鬼ヶ城には、冬季、関門海峡からの季節風によって雪が降り、白く雪を頂いた十数座の山々は美しく、登山愛好者からは「南予アルプス」と呼ばれる。

宇和島市三間町出身で山の版画家として知られる畦地梅太郎（1902～1999）は、著書『伊予の山河』の中で鬼ヶ城山系をこう表現している。

「宇和島の一方を、屏風を引きまわしたように鬼ヶ城山塊がそびえている。その南はしが権現山（九五二・六メートル）で鬼ヶ城山（一一四二メートル）、わたしは名前を知らない（一〇八九・二メートル）頂、そこから東へ突き出した山に、最高峰の高月山（二二二九・一メートル）がある」

また、慶応3年（1867）宇和島を訪れた英国外交官アーネスト・サトウ（1828～1885）は、始めて訪れた宇和島で見た鬼ヶ城を著書『一外交官の見た明治維新』の中でこのように紹介している。

「二月五日に、われわれは鹿児島を出発して翌日の十一時に宇和島湾に投錨した。美し



右から権現山、鬼ヶ城山、中岳、毛山、尻割山、四本松へと続く雪を冠した南予アルプス（宇和島市別当から撮影 2023/1/25）。

い湾が、ほとんど陸に取り巻かれており、二千フィートまでの高低さまざまな山に囲まれていた。町の東側の直ぐ後ろに、鬼ヶ城、すなわち「悪魔の城」として有名な高い峰が立っている」と。

南予アルプスの山々は、大谷彰著『南予アルプスの山々』や南予流域林業活性化センターのホームページに以下の山名を紹介している。

- 権現山（ごんげんやま） 標高952m
- 鬼ヶ城山（おにがじょうやま） 標高1151m
- 毛山（けやま） 標高1089m
- 譲力葉森（ゆずるがはもり） 標高1019m
- 篠山（ささやま） 標高1065m
- 高月山（たかつきやま） 標高1229m
- 郭公岳（かっこうだけ） 標高1010m
- 土佐方尾山（とさがおやま） 標高1100m
- 大黒山（おおくろやま） 標高1106m
- 三本杭（さんぼんぐい） 標高1226m
- 串ガ森（くしがもり） 標高1160m
- 八面山（やつづらやま） 標高1165m
- 尻割山（しりわれやま） 標高980m

また、南予アルプスには、薬師谷、成川、滑床などの美しい溪谷がある。

協 力：宇和島山岳会

参考文献…『南予アルプスの山々』大谷彰著

発行／滑床自然休養林等保護管理協議会



南予流域林業活性化センター
ホームページ

山に入ると自分が小さくなります。

山に無限の命を感じます。命のめぐり合いを感じます。

一本の木にも、一億の命があります。木の葉、一枚一枚。



古鬼ヶ城の由来
 鬼ヶ城という山名の源祥地。鎌倉時代、曾我兄弟が家物鬼五郎三郎の郷里目黒村に逃れ、この山に岩と築き鬼五郎主従がこもった故に「鬼ヶ城」の名が天下という伝説がある。甲和息藩と吉田藩が江戸時代に「境界紛争」を起し、藩府が「境」として敷定した地である。



地図 / 文 森下嘉晴

[その他]

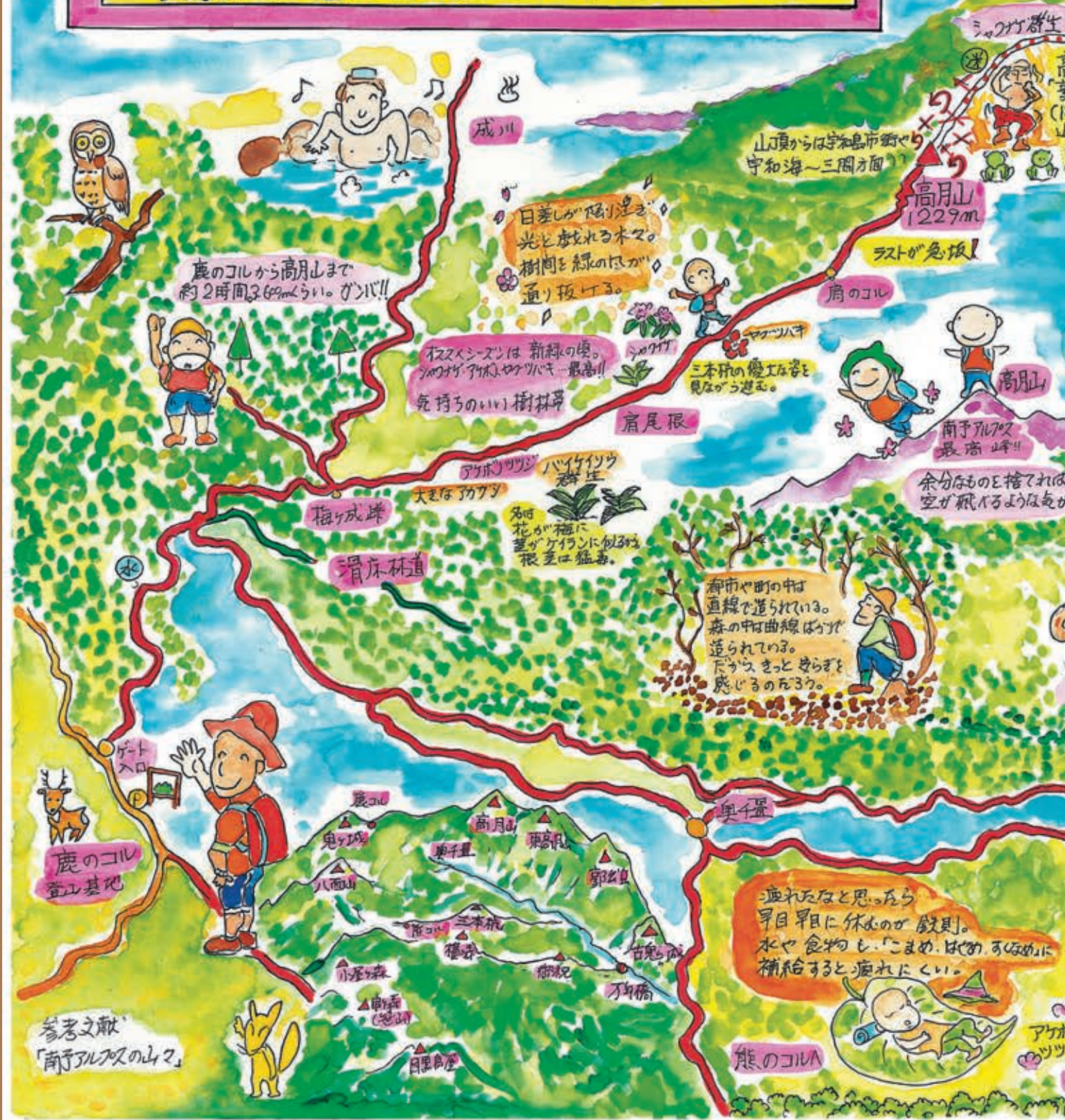
油絵でアカガシなど巨木を描き続け高知県展などに出品。

高知県森と緑の会 緑の募金協力の手ぬぐいデザイン / 土佐塩の道 手ぬぐいデザイン

四国の山々たんね歩記作者 / 森林インストラクター / 森林セラピスト / 森林総合監理士



南予アルプス鬼ヶ城山系 最高峰高月山のしおり



森下嘉晴さんプロフィール

1966年 高知県日高村生まれ 1985年 高知農業高校卒業 高知営林局(四国森林管理局)に就職。

以降、地下足袋を履いて四国の山々を転々とする。15年ほど前より、山の絵地図「四国の山々たんね歩記」製作を始める。

(「たんね歩く」とは、「訪ね歩く」というような土佐弁です) 現在、香美市物部町在住 高知中部森林管理署 猪野々・岡の内森林事務所勤務



ふるさとを知ろう、親しもう、伝えよう

「南予のぼろう会」

との出逢い

私と山との歩みは、勤労者山岳連盟 南予のぼろう会との出逢いから始まった。同会は、八幡浜・内子・野村・北宇和・宇和島の山好きの勤労者が集まり発足し、私が入会した頃は35人程の会員がいた。

当時は、土曜日半日勤務の時代、日帰りが土日を利用した一泊山行が主流だったが中には土曜日の夜、テントで合流し、語り飲み過ぎた後、日曜日の早朝、仕事のために帰っていく人もいたほど。「山が、仲間がたまらん好き！」の集まりだった。

同会では、一人でも多くの方々に山に親しんでもらい、自然豊かな美しい山々を自分たちの手で大切にしていこうとの願いから、一般市民を対象に春には鬼ヶ城山系の清掃登山、秋には石鎚山系の公開ハイク、冬は小田深山の公開スキーを実施していた。

清掃登山クリーンハイク

毎年6月に実施していた「鬼ヶ城山系清掃登山（クリーンハイク）」は、ボーイスカウトの子どもたちを含めて一般市民、営林署の職員さん等、多い時には100名近くの参加者があった。野川登山口から泣き坂・四本松を越えて鹿のゴルまで、空き缶やゴミを拾いながら登っていた。ゴール後は

※尾根上のピーク（山頂のこと。）とピーク間の標高が低くなったところです。※ハイキング、山歩き、遠足

会員が各自の得意分野を担当し、清掃登山の意義、鬼ヶ城山系の話や野鳥の話、ゲームや山の歌の合唱等のリレーションをしていた。参加者は冷たいオレンジジュースの清涼感と達成感を味わっていたのだと思う。

この清掃登山も黒尊スーパー林道の開発で野川登山口からの登山者が減って、登山道のゴミが減り、鹿のゴル現地集合と形を変え、子どもたちには鬼ヶ城山を経由して大久保山〜八面山で地元の人に親しむ体験をしてもらうことに重点をおき、大人たちは道路沿いに捨てられた粗大ゴミの回収や登山道の下刈りを行った。

清掃をしながら、山の状態が気候変動と共に変化してきたこと、歩いて登る人が減り、車でやってくる人が増えたことでゴミの様子が激変したことを哀しく、寂しく思う。そして、2019年まで約50年間続いたこの行事もボーイスカウトの参加打ち切りや会員の高齢化、コロナ感染症の拡大等の諸事情でやむなく中止とした。

車で鹿のゴルまで行けるようになり、高月山へも短時間で登れるようになった事は喜ばしいことだが、粗大ゴミまで手軽に運ばれては堪ったものじゃない。「わざわざ、ここまで持ってこなくても」と遠く宇和島市街を眺めながら、半ば呆れてしまうのは私だけではないはずだ。

子どもたちに山に親しんでもらいたい

私たちが小さい頃は、休日になると山や野原で子どもだけで遊ぶことが多かった。大人に連れて行ってもらわなくても、年長者がリーダーとして年下の子どもの世話をしてくれていた。学校でも結構長い距離を



平成12（2000）年3月8日の高月山卒業遠足



文 毛利弘子

歩いての遠足が多く、歩くことにも抵抗がなかった気がする。

私が勤務していた小学校での思い出がある。地元にある最高峰高月山（標高1229m）を「3月の卒業遠足で、5、6年生で登ろう」と目標を立てた。そして、高月山遠足に備えて、グラウンドでの走り込みや泉ヶ森（標高755m）での予備山行で鍛錬を重ねた。

そして、子どもたちの頑張りにも共感して「南予のぼろう会」から10名程がサポーター役をかって出てくれた。参加者は、当日は成川溪谷まで各自、自転車等で集合し、登山に臨んだ。

また、二回目の遠足では山頂に雪が残っていて、弁当のおにぎりが凍っていたこともあった。

あれから何十年も経っているけど、一緒に登った人と会えば、昨日のことのように思い出話に花が咲く。今思えば、計画を立てられた校長先生、それを許可された教育長さんの勇氣、渋々ながら（？）協力し、子どもたちを励まし続けて下さった先生方、この計画を理解し、子どもを送り出して下さった保護者の皆さんには、ほんとうに感謝する。そして、何より登頂した子どもたちの頑張りを中心に絶賛したい。

南予アルプスの花だより

南予アルプスの山々は、四季折々の花、紅葉、雪景色で私達を楽しませてくれます。特に花々は、山で見るからこそ美しく、山の中によく映えます。自分の足で汗かき登って行くから「よう、ここまで来たね」「今年も元気で会えたね」と、花たちが両手を広げて歓迎してくれます。山の花たちの佇まいは、痛いほど清楚で、その色合いは山の緑のなかで慎ましく輝いています。(嗚呼、賛美の言葉が足りない！) 手軽に行けるコースをご紹介しますので、とにかく行って自分の目で確かめて下さい。

篠山のアケボノツツジ

①篠山 (標高 1085m)

気軽に行ける山で、高知県側の篠山スカイラインを使えば車で行け、駐車場から1時間余りで登れる。ミヤコササが生い茂る天然林の登山道を上ると、左右に狛犬をひかえた石段を登り篠山神社に出る。愛媛県側からは旧参道を登ると神社の裏側に出る。そこにアケボノツツジの群生が見られ、急坂を登ってきた私達を癒やしてくれる。アケボノツツジは4月下旬、ホンシャクナゲは5月上旬、ベニドウダンは6月頃が見ごろだ。



シャクナゲ



ヤマシャクヤク

②梅が成～高月山 (標高 1229m)

梅が成峠から高月山までのコースは、シャクナゲ、バイケイソウ、ヤマシャクヤク、ミツバツツジ、ヤマツバキ等、たくさんの花たちに出会える絶好のコース。

まず、シャクナゲは4月下旬から5月の連休辺りに見頃を迎える。右を見ても左を見ても見上げても足元にも花盛り、ゆっくり時間をかけて歩こう。花のトンネルが続くので、感激で歓声を上げていたら、途中で声が枯れるほど。シャクナゲは、案外見落としがちで、鹿の科尔からの鬼ヶ城山(1151m)が見事。高月山までは急坂が続くが、その分たくさんの花々が待っている。肩の科尔を越えて高月山までの急坂辺りを少し右側に下ると、ヤマシャクヤクが4月下旬から5月中旬頃に見られる。また、6月下旬にはバイケイソウの可憐で清楚な花が一面に広がっている。ここで、英気を養うと山頂までの急坂も頑張れる。



バイケイソウ

③横の森 (標高 1200m) ～藤ヶ生越～串ヶ森 (標高 1160m) ～目黒鳥屋 (標高 1157m)

三本杭から右に進むと、5月中旬から下旬にかけてミツバツツジの群生が素晴らしい。豊かなブナ原生林を見ながら、穏やかな尾根伝いに行ける魅力的なコースだ。運が良ければ、途中でヤマシャクヤクも見られる。山の花々に会えるコースは他にもたくさんあるので、是非とも自分の足で自分だけの穴場を見つけてほしい。

あなたに会えるのを、花たちもきっと待っていると思う。まさに、ふるさと再発見の機会だ。



ミツバツツジ

毛利弘子さんプロフィール

1952年生まれ 公立小中学校養護教諭を2012年定年退職 性教育の講演や全国大会での研究発表多数

受賞/平成24年愛媛県学校保健功労賞 令和3年文部科学大臣学校保健功労賞 執筆/「いのちのはなしグーチョコキパー」(エイデル研究所出版)

その他/和霊公民館運営審議委員・更生保護女性会副会長・退職公務員連盟中央分会副会長・和霊小学校読み聞かせボランティアほか

趣味/陶芸・登山・写真・絵手紙・歩き遍路・シーボーンアート

写真/北濱一男、平田和子、毛利弘子



鬼ヶ城山系は心身ともにリラックス効果絶大！



鬼ヶ城山系がつむぐ 家族の時間

長年親しんできた鬼ヶ城山系ですが、私にとって家族と過ごす大切な場所でもあります。新緑、紅葉、雪景色と一年を通じて山へ行きます。息子と娘だけでなく、何より、うれしいのは小学生の孫たちもいっしょに山へ行ってくれることです。

春めき始めると、「じいじ、シャクナゲもう咲いたかね？」とか、冷え込みが厳しくなると、「鬼ヶ城は真っ白やね。雪のくらい積もつとるやろか」と会話が弾みます。こうした話が出た翌日には、こぞって自家用車に乗り込み、登山口をめざして林道を登っていきます。

春は、シャクナゲやオソツツジが山を彩り、耳を澄ませば、ツツピー♪ ツツピー♪ と野鳥のさえずりが聴こえます。「あれは何の鳥の声かね？」「シジユウカラかな？」と当てっこをします。

初夏になると、アサギマダラやセンチュウガネに出会えます。岩の隙間を覗けば、大きなヒキガエルが、じっと身を潜めています。「わあ、大きい！」と、孫も息子も皆な生き物に遭遇するとはしゃぎだします。登山道には倒木や石に苔がむして、新緑が美



文 山下 武

しく輝きます。霧が出ているときは、それもまた、なんとも幻想的です。老木は新芽を付け、新たな生命の誕生を目の当たりにすることができます。

そして、登り切った先の標高1000メートル級の眺望は、いつだって絶景です。青々とした空や峰々が眼下に広がり、途中の上り坂の苦労など吹き飛ばしてしまいます。そこで、リュックから妻の握ったおむすび弁当を取り出して、「じいじ、山で食べるばあばのお弁当は、おいしいね」と、ほおばります。これ以上ない贅沢な時間だといつも感じます。

冬には一面が銀世界となった鹿のコルの駐車場に車を止めて、登山を始めます。独特の静けさに包まれ、サクッサクツと雪を踏み込んで歩きます。足元をみると、動物の足跡が、「これはワサギかね？ こつちは鹿やないろうか」と雪の上を駆けまわる山の生き物に思いをはせます。すると、どこからかピーー♪ ピーイー♪ と鹿の鳴き声がします。「こんなに寒いのに、たくましく生きとるんやねえ」と孫が言います。



山頂では、湯を沸かし、いつものおむすびとカップ麺で暖をとります。林道に戻ると、染み出た水が凍りつき、岩肌には氷柱がカーテンのように覆っています。「お山、楽しかったね」と、小さな孫たちがほつりつぶやくだけで、豊かな自然がこんなに身近にあることに感謝しつつ、胸がいつぱいになります。



雪のスーパー林道

鬼北トレッキング協会の とりくみ

鬼ヶ城山系は、山頂から一望できる宇和海や宇和島市街、四季折々の絶景、響きわたる鳥のさえずり、私は50年以上この山系に癒されてきました。「鬼北町トレッキング協会」は、そんな「魅力あふれる鬼ヶ城山系の素晴らしさを発信しよう」をモットーに、平成25年6月に設立しました。設立後、山岳ガイドの体験講習や、森林

セラピーの研修などに参加し、「山の案内人」としてのノウハウを教わりました。そこで学んだのは、五感を使って非日常的な体験をすることで感動したり、リラクゼーションしたりできるのは、大自然の力だということ。現代社会において抱えるストレスをこの鬼ヶ城山系で癒してもらいたい、さらにそう強く思うようになりました。

私たちは毎年、春と秋に「鬼ヶ城山系癒しのトレッキング」と題したイベントを行っています。春にはシャクナゲやオウツツジ、秋には紅葉の絨毯が広がる中にそびえ立つブナの巨木。これはもう圧巻です。また、昨年は数年ぶりに初夏にも開催し、四国で唯一、高月山で見ることができないバイケイソウの「群生」を楽しんでいただきました。



聴診器を木に当ててみると・・・

そして、イベントの中でも、毎回欠かせないのが、聴診器を使って木の中を流れる水の音を聴いていただく体験です。木によって「ゴーツ」と聴こえたり「ポコポコ」と聴こえたりします（面白いですよ）。参加者の皆さんもじっと耳を澄まして、自然の力強さを感じていただいているのではないのでしょうか。参加いただいた皆さん

の楽しそうな笑顔や、仲間と感動を分かち合っておられる姿を見ることができると私もとても嬉しいです。

また、その他にも、冬には探鳥会、鹿の角や鬼くるみを使ったアクセサリー作り体験など、自然とふれあうイベントを開催し、自然の楽しさを伝えていきます。

鬼ヶ城山系の魅力は、実際に自分の目で見て、歩いて、感じて、体験することで初めて分かります。少しでも多くの人に鬼ヶ城山系に登ってもらい、花鳥風月を感じてもらうことで、この良さを知っていただきたいです。そして、「私も鬼ヶ城山系の魅力を皆に伝えたい」そう思っていただけだと、私たちトレッキング協会として、とても幸せです。



二人でも抱えきれないブナの巨木

山下 武さんプロフィール

1953年生まれ 平成25年 愛媛県自然保護指導員委嘱 平成28年 環境省自然公園指導員委嘱
令和元年 自然ふれあい部門で「環境功労者環境省大臣表彰」受章

5/14
(日)

第23回 鬼ヶ城山系 癒しのトレッキング

- 【内 容】 高月山方面 ※片道約90分 ※町マイクロバスで移動
- 【集合場所】 鬼北町役場正面玄関 (役場～黒尊林道登山口・鹿のコル)
- 【集合時間】 8時30分 ※受付8時～ ※雨天の場合は5月21日(日)に順延
- 【募集人数】 20人 【問い合わせ】 鬼北町トレッキング協会 ☎090-3784-4845

前回の様子



江戸時代の篠山をめぐる国境争い ～土佐・宇和島の争いの果てに～



篠山は、古くから霊峰として地元の人々から親しまれてきた。その場所が高知県と愛媛県にまたがることから、江戸時代には、その頂上にある寺社の領有と麓の正木川での国境や地名の相違をめぐり、土佐藩領の窪川村（現在の宿毛市山北地区）と宇和島藩領の正木村（現在の愛南町正木地区）において、争いが絶えなかった。

17世紀半ば頃、もともとは、麓の正木川をはさんで位置する正木村と窪川村の少人数での小競り合いだった。それが、農作物を荒らしたり、材木を盗んだり、日増しに悪化し、大騒動となっていた。

地名をめぐる争いは、土佐藩が「おつむきが尾」と主張する尾根を、宇和島藩では「おつつみの尾」と主張し争った。

一方、山頂の寺社仏閣は往昔より両国支配とされてきたのに、土佐藩は自国支配と主張し、宇和島藩からの参詣者を土佐の人たちが妨害するなど、手荒な事件も起こっていた。

こうした様々な紛争の結果、明暦2（1656）年、篠山住持の老僧、正善が宇和島藩に訴え、藩はこれを公事（裁判）として幕府に届け出た。その担当に、藩から鈴木忠右衛門と伊藤与右衛門の2名が命じられた。

そうして、篠山寺社の領有と麓の国境をめぐる争いを幕府に説明するための資料として、宇和島藩側は、模型と絵図を明暦3（1657）年に作製した。

幕府では、寺社奉行が公事を取り仕切ることになり、その経緯を説明するために選ばれたのが、正善、助之丞（正木村庄屋、宇兵衛（横川村（現在の宇和島市御楨地区）庄屋）の3名だった。

彼らは、模型と絵図を持参して上京し、翌年の万治元（1658）年10月から寺社奉行所へ積極的に出かけ、篠山での紛争の窮状を説明しようとして嘆願するも、奉行には、なかなか会えなかった。実際に模型を見せることができたのは翌年の3月のことであつた。3人は、その後、も根気強く通い続け、両者の主張の相違を説明した。

そして、寺社奉行が裁定を下したのは、同年11月。その内容は、まず、篠山は両国の山とし、これまで宇和島側からのみ出していた神主を土佐側からも出すこと。次に、麓の正木川の土佐が主張する境界を認めた上で、その代替地に隣接する土佐領から宇和島藩へ与えることとなり、結

果、正木川をはさんで、それぞれの領内に飛び地が生まれることとなった。

したがって、山頂の寺社領有は宇和島藩の主張が聞き入れられた。一方、麓の境界は土佐藩の主張が聞き入れられた。土佐藩と宇和島藩の両者を立てた内容の裁定であつた。明治維新を迎えると、飛び地となっていた場所は正木川を境として元どおりに収まり、山頂には国境が分かるように石碑が建てられた（写真1）。



（写真1）篠山国境石碑

なお、根拠資料として作製された模型は「篠山山形模型」として現存し、平成24年に愛媛県の指定文化財となり伊達博物館で保管している。

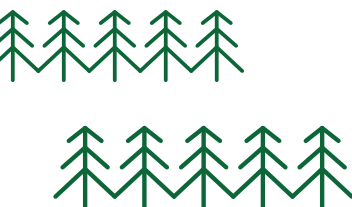
また、この山形模型に関係する資料として、愛南町の一本松郷土資料館には「篠山絵図」が保管されており、現在は愛南町の指定文化財となっている。

現在、地元の篠山ではの日本一長い学校名として知られる「高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小学校組合立篠山中学校」が設けられ、県境を越えて、地元の児童・生徒が通学している。

篠山では、江戸時代の国境争いの結果生まれた境界での交流が今なお反映されているのだ。



（写真2）愛媛県指定文化財 篠山山形模型



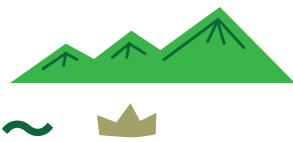
宇和島市立伊達博物館 学芸員 志後野迫 希世
1975年 宇和島市生まれ
専門は日本近世史

■宇和島市立伊達博物館
入館料：高大400円 大人500円
休館日：毎週火曜日 ほか要確認
☎0895-22-7776



【参考文献】宇和島市教育委員会編 2009『篠山山形模型並びに関係資料調査報告書』

目黒・滑床の山をめぐるドラマ ～江戸時代吉田・宇和島両藩の山境争い～



山境争い

松野町のキャッチフレーズである「森の国」の源泉は目黒地区を含む滑床一帯である。この滑床は、江戸時代に繰り広げられた吉田藩と宇和島藩の山境争いの舞台でもある。

明暦3（1657）年8月、伊予吉田藩が成立する。森林が広がり用材がまかなえる目黒村は、分藩する吉田藩のために飛び地の状態で吉田藩領とされたが、分藩後1年もたたない明暦4年に境界をめぐる問題が顕在化した。これまで目黒村の奥の滑床山一帯は藩有林で、村境が意識されることはなかったため、新たに村境を決める必要がでてきたのだ。

境界争いの背景のひとつには藩の事情があった。吉田藩は陣屋町建設に対して多量の木材を必要とし、それを目黒村に調達させる予定であった。一方の宇和島藩は宇和島城天守の建て替えを控えており、良材のある滑床山一帯を渡すわけにはいかなかった。目黒村庄屋の長左衛門は、吉田藩に命ぜられた材木を確保し、村を守るため奔走する。

事の発端は、目黒村が吉田藩の御用のために伐採予定だった小岩谷（現在の滑床万年荘向かいの尾根）一帯（立野桐山とも呼ばれる）のスキを宇和島御町柵衆が伐採したためであった。長左衛門は直ちに伐採をや



幕府裁許絵図

めさせ、吉田藩役人に対応を訴えた。その一方、先の庄屋であり、現在は次郎丸村庄屋（宇和島藩）に転勤した長左衛門の兄兵左衛門に問い合わせた。初代庄屋で二人の父でもあり、現在は目黒に居住し長左衛門を後見していた方元も兵左衛門に対し親子の情に訴えるが兵左衛門は聞かない。

境界争いの争点は4か所で、若山の立山（藩有林）、立野桐山、鷹山（現在の三本杭周辺）、櫻谷村（現在の松野町大字富岡）境である。藩の役人も交えた当事者の話し合いは、感情的な対立となり、解決の目途が立たないため一時的な棚上げが合意された。

その間、双方で実力行使の応酬が繰り返される。万治4（1661）年2月末、宇和島藩は今まで目黒村が管理していた藤ヶ生の伐採を強行

した。長左衛門は直ちに駆けつけて抗議したが、宇和島藩側に門前払いされる。この報復として翌、寛文2（1662）年12月、吉田藩は立野桐山の強行伐採に出た。これに対抗し、宇和島藩は寛文3年8月、今度は藤ヶ生の上の大成山で伐採する。力で押されてきた吉田藩は、幕府をたよって裁定してもらおうとしかないと決意する。寛文4（1664）年、長左衛門と父方元は、はるばる江戸に出て「われわれ百姓は未代までここで生きていかなければならないのです」と訴えてた。

その後、幕府の命により双方で山形と絵図を製作することになり、寛文5（1665）年に完成し、江戸城内の評定所で裁定があった。この時使用された地形模様が目黒山形であり、新たに定められた境界が描かれた絵図（裏に裁許状が書かれている）を裁許絵図という。この時定まった境界は現在も宇

和島市、松野町、高知県四万十市の境となっている。なお、この裁定を宇和島藩は思いつ通り、吉田藩は勝訴と互いに喜んでいいる。つまり、双方の顔を立て、森林資源を公平に分けた形となった。



松野町の目黒ふるさと館に展示されている重要文化財「目黒山形」

山形及び絵図、関連する文書類はその後地域で大切に保管され、平成19年に「目黒山形関係資料」として国の重要文化財に指定された。現在は目黒ふるさと館で展示している。



松野町教育委員会教育課 文化振興係
1988年 宮崎県宮崎市生まれ
専門は考古学
かめざわ いっぺい
亀澤 一平

■目黒ふるさと館

入館料：200円（中学生以下無料）
休館日：毎週水曜日・年末年始
☎0895-43-0148



【参考文献】松野町教育委員会編 2022 『松野町文化的景観調査報告書—目黒の農山村景観—』

Shino Ohno


愛媛県美術館開館25周年記念

Shino Ohno, "The
Museum of Art, Ehime",
2023, Oil on Canvas,
150 x 150 cm

大 森 伸 朗 展

愛媛県美術館

2023.5.3 [水・祝] - 7.2 [日]

 愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
Horinouchi, Matsuyama, Ehime, 790-0007, Japan
TEL: 089-932-0010

<https://www.ehime-art.jp/> 

主催：愛媛県美術館、東京国立近代美術館
協賛：株式会社ベネッセホールディングス、公益財団法人 福武財団
愛媛県協賛：愛媛銀行、道後温泉旅館協同組合、株式会社サンメディカル
NINO INC.、有限会社スタジオ広道、藤田産業株式会社、
TMトミオカ株式会社、株式会社ア・ファクトリー、
道後商店街振興組合

特別協力：TAKE NINAGAWA、宇和島市、松山市、
未来へつなく道後まちづくり実行委員会

開館時間：9時40分 - 18時（入場は17時30分まで）

休館日：月曜日 ※ただし6月5日は開館、6月6日は（祝）は休館

観覧料：一般=1,500円、高大生=900円

※高齢者（65才以上）は一般料から100円引き。

※団体（20名以上）は各200円引き。

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料。

※本展期間中の、パフィオらわじま内「大竹文庫」オリジナルスタンプを押したブックリスト、
道後温泉本館の「温泉/NETSU-KEI」コラボレーション入浴券をお持ちの方は
団体料金で入場可。

The Museum of Art, Ehime

新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止のため、イベント等の中止・変更や、やむを得ず展示室内の
入場制限を行う場合がありますのでご了承ください。

[大竹伸朗展について]

本展は、高度成長期の東京に生まれ育ち、1988年以降は愛媛県宇和島市を拠点に制作する大竹伸朗の軌跡を7つのテーマ——「自/他」「記憶」「時間」「移行」「夢/網膜」「層」「音」——に基づいて読み解く回顧展です。

大竹伸朗(1955-)は、分野を限定することなく多彩に活動を展開し、二大国際展であるドクメンタ(2012年)とヴェネチア・ビエンナーレ(2013年)に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも高く評価されています。消費され、忘却されてゆくようなあらゆる「もの」に着目し、半世紀近くにわたり独創性に溢れる作品を手掛けてきました。その膨大な数の作品の中には《ニューチャンネル》や《宇和島駅》を始め、宇和島ゆかりの作品も数多くみられます。



[宇和島駅] 1997年 各 190×90×180cm
Photo: 岡野圭 (※写真は東京国立近代美術館開催時)

今回、ライフワークである70冊を超える《スクラップブック》や記念碑的な立体大型作品を含む、選び抜かれたおよそ500点にも及ぶ作品を、敢えて時系列から切り離し、その作品世界に没

入できるように再構築してご紹介します。大竹伸朗が、その半生をかけて見つめてきた情景を、作品を通して追体験していただければ幸いです。

開館25周年を迎える愛媛県美術館を会場に、初の地元開催となる本展では、宇和島市、そして道後温泉本館(松山市)と連携した特別展示も実施します。



[ミスター・ピーナッツ] 1978-81年 個人蔵

[大竹伸朗 Shinro Ohtake profile]

1955年東京都生まれ。愛媛県宇和島市在住。

主な個展に熊本市現代美術館/水戸芸術館現代美術ギャラリー(2019)、パラソルユニット現代美術財団(2014)、高松市美術館(2013)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(2013)、アートソングセンター(2012)、広島市現代美術館/福岡市美術館(2007)、東京都現代美術館(2006)など。また国立国際美術館(2018)、ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート(2016)、バービカン・センター(2016)などの企画展に出展。ハワイ・トリエンナーレ(2022)、アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2018)、横浜トリエンナーレ(2014)、ヴェネチア・ビエンナーレ(2013)、ドクメンタ(2012)、光州ビエンナーレ(2010)、瀬戸内国際芸術祭(2010、13、16、19、22)など多数の国際展に参加。また「アゲインスト・ネイチャー」(1989)、「キャビネット・オブ・サイエンス」(1991)など歴史的に重要な展覧会にも多く参加している。



©Shinro Ohtake, photo by Shoko

作家サイト

<https://www.ohtakeshinro.com>



[大竹伸朗展の見どころ]

●16年ぶりの大回顧展・東京国立近代美術館で立ち上げ

2006年に東京都現代美術館で開催された「全景 1955-2006」以来となる大規模な回顧展。昨年東京国立近代美術館で立ち上げられました。1982年の大竹の初個展から40周年を経て、半世紀近くにおよぶ創作活動を一挙にご紹介します。

●7つのテーマで体感する作品世界

7つのテーマ「自／他」「記憶」「時間」「移行」「夢／網膜」「層」「音」に基づいた会場構成。ゆるやかにつながるテーマで、時代順にこだわることなく大竹の作品世界に没入し、その創作のエネルギーを体感できます。

●およそ500点の圧倒的なボリュームと密度

最初期の作品から近年の海外発表作、そしてコロナ禍に制作された最新作まで、およそ500点の作品が一堂に会します。小さな手製本から巨大な小屋型のインスタレーション、作品が発する音など、ものと音が空間を埋め尽くします。

●本展のために製作されたニューグッズも多数登場

スナックの看板をモチーフにした代表作《ニューシャネル》(1998年)をはじめとした「大竹文字」Tシャツなどで人気を博す大竹伸朗グッズ。本展開催にあわせて製作された展覧会オリジナルのニューグッズが続々登場します。

●愛媛展だけの特別展示

初の地元開催となる愛媛展では、関わりの深い宇和島市と道後温泉本館（松山市）と連携した特別展示コーナーを設けます。



[ニューシャネル]
1998年 179×72.5×16.5cm

[特別展示]

大竹伸朗が手掛けた「パフィオうわじま」ホール緞帳作品と道後温泉本館保存修理後期工事の素屋根テント膜作品の原画を特別展示します。

初公開



[のぞき岩]
(「パフィオうわじま」ホール緞帳) 2019年



[熱景 / NETSU-KEI]
© Shinro Ohtake / dogo2021

[大竹文庫]

「パフィオうわじま」に大竹伸朗氏による緞帳『のぞき岩』が誕生したのは2019年です。このとき、同じ建物内に図書館がある。というご縁から氏の蔵書を展示する企画がスタートしました。

選書・配架・インデックスデザイン全て大竹伸朗プロデュースのそのスペースは、「大竹文庫」と命名され2020年8月、中央図書館3階にオープンしました。「大竹文庫」には、公立図書館では珍しく美術書や展覧会図録などアート系の本が充実しており、閲覧だけではなく当館の利用者カードをご提示頂ければ一部貸出可能な本もあります。



また、大竹氏自身の著作が「大竹文字」とともにディスプレイされている展示台は一見の価値があります。

宇和島市立中央図書館



「虎の尾」の西本酒造から新製品

みまの穂

「みまの穂」は、愛媛の米（しずく媛）を使い、愛媛で開発した「さくら媛酵母」を使った、愛媛にこだわったお酒です。

純米吟醸のさくら媛酵母には、「トロピカル」「クリア」「ウェルバランス」「リッチ」の4種類があり、「みまの穂」には、「リッチ」を使用しました。独特の味が引き立つように、純米吟醸の原酒で出荷させていただきます。芳醇な味と香りをお楽しみください。

標準小売価格 720 ml
1,800 円（税抜き）



西本酒造株式会社

愛媛県宇和島市三間町宮野下 855

☎ 0895-58-2008 FAX895-58-2011

URL <http://toranoo.com/>

第26回宇和島市長杯ヨットレース

パールカップ 2023

会期：4月30日（日） スタート 午前10時～
コース：九島～遊子沖合※レース観戦は九島の裏側でどうぞ。

中四国最大規模の参加艇数を誇るパールカップ。カラフルなセイルで優雅に走るヨットレースを間近で観戦してみませんか？



県下では唯一の本格的なトレイルランニング大会

2023鬼が城ピークストレイル

会期：4月9日（日） 午前6時～午後7時

コース：丸山陸上競技場～鬼が城山系

“トレイルランニング”は、山道や林道といった未舗装路をただ走るだけでなく、登山や水・食料などの補給技術なども問われるスポーツです。日本ではまだメジャースポーツとはいえず、その中でも愛媛県は後進地域ですが、昨年4月に、愛媛県初の本格的なトレイルランニング大会『鬼が城ピークストレイル』を開催し、全国から105名のトレイルランナーが、鬼が城山系を駆け巡りました。

今年は、さらにアップダウンの厳しい延長50キロ、累積標高3710m、制限時間13時間のコースに、全国から昨年を上回る160名あまりのランナーがエントリーいただいています。また国内屈指のトレイルランナーを4名招待させていただき、その激走に期待しているところです。

鬼が城に挑むランナーへの応援、声援をお願いします。

2023 鬼が城トレイルピークス実行委員会
info@uwajima-trail.jp



「作品づくりを通して意味のある人間になりたい」

漫画家 << SEIKE TAKAHARU 清家 孝春

2016年に第78回小学館新人コミック大賞にて入選を果たし、昨年3月に小学館の漫画雑誌「週刊ピッコミックスピリッツ」に『無職の学校〜職業訓練校での200日間〜』で連載デビューした宇和島市出身の清家孝春さん(30)にお話を伺った。

宇和島市吉田町に生まれた清家さんは、幼少期から絵を描くことが好きで、描くと周りから誉められるので、絵を描くことは「楽しい事」だった。ただ、描いた絵で周りが大騒ぎするほどではなかった。

小学生で始めた水泳も結果を出すと誉められるので、それが嬉しくて厳しい練習にも耐えた。水泳は、中高一貫校に入学してからも続け、たまたま絵は描いていたが、漫画家になりたいなどとは思っていなかった。

転機は、高校1年に訪れる。がむしゃらに取組んできた水泳の練習が辛く、楽しくなくなってきたのだ。「本当に自分がやりたいことは何か」と自問する日々が続いた。そして、出した答えが「自分は漫画が描きたい」だった。

心機一転、水泳部を辞め、高校2年からは美術部に入部し、美術系大学進学を目標にすえた。そのため部活では入試対策のデッサンが中心で楽しいものではなかった。

ちょうどその頃、以前から家族く

※小学館が発行する日本の週刊青年漫画雑誌。1980年10月創刊。毎週月曜日発売。

るみの交流があった清家由佳さんが、絵画教室「アトリエばれっと」を開業していて、部活以外でも絵を習いたいと思いつくことになった。

こうして、部活では基礎を磨き、放課後は「アトリエばれっと」で描く楽しさを学んだ。この高校最後の2年間は、漫画家としての基礎をつくる貴重な時間となった。

入学を果たした大阪芸術大学では、デザイナーを目指すためキャラクター造形学科を選択したものの、よく考えてみれば、それは食べていくために安易に選んだ道であって、自分がやりたかった「漫画」をやり遂げるべきだ、という思いが次第に大きくなっていった。

ぎりぎりまで悩んだ末、親には内緒で同学科の漫画コースへ進むことを決めた。後に、そのことを知った母親は、声を上げて驚いたというが、その後は、暖かく応援してくれた。

「当初目指していたデザイナーだと、たいていは企業に就職するんですが、漫画家を目指すとなると、大学を卒業して、どうやっていけばいいのかわからないませんでした。卒業してからも自分がやっていることに意味はあるのか?と自問する期間が長かったのも事実です。それでも、自分の家族や友人をモデルにした短編漫画が掲載されると、一番読んでもらいたかった、その人たちに『良か

ったよ』と喜んでもらえるだけ、『社会に居場所があるんだ』と思えて、それは、お金以外のモチベーションの根源でした」

今回、連載デビューした『無職の学校〜職業訓練校での200日間〜』は、清家さんの実体験をもとに、就職活動で心に傷を負った主人公が職業訓練校で年齢の違う様々な経歴をもつ同級生と繰り広げるヒューマンストーリー。作品の登場人物には、実際に訓練校にいた人物をモデルにしたキャラクターもいるという。また、リアリティーを大切にしたいと、自身の日記や時に職業訓練校の先生に連絡して確認したりもする。

ストーリーの元になった職業訓練校時代のことを聞くと、――
「入校してから3ヶ月経った頃、とりあえず就職しようと考えて、就職が決まりかけていたんですが、担任に相談すると『本当にいいの?』と意外な答えが返って来たんです(担任には漫画を描いていることを伝えていて、たまに掲載される短編も読んでもらっていた)。就職させないといけない先生が、そんな事言うの?」

と思っただんですけど、よく考えてみると、やっぱり自分は漫画が描きたいんだ、と気づいて結局、卒業後も就職はせず、漫画を活かせるバイトと職業訓練校で学んだことを活かせるバイトを掛け持ちしていました」

こんな風に、バイトをしながら漫画家を目指すと思うと、なんだか悲壮感が漂ってきそうだが、たまに、仲間が集まると、漫画談義に花が咲いて、ワイワイと楽しく明るくやっていた。

今回、連載が叶った要因を尋ねると(しばらく考えて)――
「何の仕事でもそうだと思うんですけど、自らが間違いを認めて、『ここを直して』と言われたことに、自分の意志を持って、ちゃんと向き合って直すということが連載を勝ち得た最大の要因だと思っています。結局、人のいう事を聞け、という事なのかなと思います」と清家さんの人柄がうかがえる謙虚な言葉が返ってきた。

最後に今後について聞くと、――
「今は、自分の漫画を通して人脈が広がるのがとても楽しいです。今後は、自分に関わって下さる人にとって意味のある人間になりたいと思っています」と締めくくった。

今後も清家さんの活躍に目が離せない。

協力/株式会社小学館第三コミック局
週刊ピッコミックスピリッツ
編集部 夏目毅
アトリエばれっと 清家由佳
インタビュー・構成/川尻純滋



清家 孝春 プロフィール

1993年1月10日生まれ。愛媛県宇和島市吉田町出身。大阪市在住。

『雲がちぎれるとき』にて、第78回小学館新人コミック大賞 青年部門入選。

その後、「月刊！スピリッツ」にて何度か読切作品を掲載。2022年3月、職業訓練校で感じたこと、体験したことをベースにした物語を描きたい、という思いから「週刊ビッグコミックスピリッツ」にて『無職の学校～職業訓練校での200日間～』を連載開始。本作が連載デビュー作になる。

NHK松山、
愛媛新聞などで
取り上げられた
話題作!

作者の実体験が
詰まった心温まる社会派ドラマ!

ハローテック
ものづくりセンター真島

職に就きたい。

今の時代、それがこんなに重いなんて。

全員、無職。



元ダンサーの40代。



ギャンブル中毒。



800万の損害でクビのOL。

無職の学校 1

~職業訓練校での200日間~

清家 孝春

School of the Unemployed
Takaharu Seike
発行/小学館 定価/715円(税込)

書店で単行本が見つからない場合は、お手数ですが店頭でご注文ください。
お問い合わせ先/お客様相談センター ☎03-5281-3556

絶賛
発売中
!!!!!!



山の神の祭り (松野町目黒)



目黒の千匹供養塔



岩陰に祀られる目黒の山の神



目黒の山の神の小祠



目黒の山の神に祀られるマサカリ

南予における代表的な山村集落が松野町目黒である。ここには田園風景も広がるが、狩猟や林業等の山村要素が他よりも色濃く、目黒の地名も河後森城主が地元の狩師を見て命名した伝承も残る。

目黒の国木谷の大師堂境内には千匹供養塔と呼ばれる石塔が立つ。これは1710(宝永7)年、狩師が生涯で千頭の鹿、猪等を獲ったことで、動物の霊を供養するために建立したもので「獵取麋鹿一千以神供養俗名十助」と刻まれている。狩師は生涯で千頭を獲ると引退する慣習で、動物の持統

山の神は、山に宿り、山に生きる動植物を守護すると信じられた神霊で、山中の小祠、巨岩(磐座)、大木等を依代として祀ることが多い。正月に山仕事の始めの行事として、木枝に紙垂を付けて酒米を供え、直会をする儀礼が各地に見られる。柳田国男は、山は祖先神が留まる他界であり、山の神は田の神と同一であるという。山の神は春に里に降りて田の神となり、秋の収穫後に山に帰えるというが、これは農村での伝承であって、狩猟や山樵を生業とする山村での信仰とは異なる。祖先神や田の神観念は薄く、自然神に近い性格であるのが山村の山の神の特徴である。

国木谷の山の神は11月下旬に縁日があり、子ども相撲を行っていたが現在では関係者が参拝するのみである。山の神の祭りには派手な芸能や山車、屋台が登場することはなく、ごく簡素な神事で済まされるが、狩猟や林業等の生業は危険を伴い、安全祈願のための山の神への信仰は今後も継承されていくことだろう。祭りや芸能は華やかできらびやかなものだけではない。簡素で素朴ではあるが、安心に生きるために受け継がれた行事は数多く、それらに注目することも大切といえるだろう。

的な資源管理が行えるようなシステムとなっていた。なお、千匹供養塔は九州北部に多く見られるも、四国では目黒の供養塔のみで、四国の狩猟文化を考える上で貴重な石造文化財である。

目黒には数ヶ所に山の神が祀られる。祭神は大山積神で、保戸峰や西ノ川では毎年正月、5月、9月20日に山祭りが行われる。巨石の岩陰に山の神の祠が祀られ、ご神体はマサカリで、農村部の山の神とは様相が異なる。正月、5月、9月に祭りを行うことは中国地方西部から九州南部にかけての山の神と共通し、目黒の山の神もその類例と考えられる。

写真提供／松野町教育委員会

愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員

大本敬久



1971年、八幡浜市生まれ
専門は民俗学・日本文化論著書に『民俗の知恵』(創風社出版)等



文ちゃんどつぼの 予土線のあの人に会いたい 番外編

つぼうちまさみ
高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー／鉄道カメラマン 坪内政美さん

「走行距離 | 100万キロを超えた愛車の話」

文／山下文字
写真／山下文字、西本篤司



静かな田園地帯をさっそうと駆け抜けていくダークブルーの一台のセダン。予土線の線路脇に車を止め、中からスーツ姿の長身の男性が現れた。黒い革手袋にバズーカー砲かと思まごうばかりの望遠レンズ付きのカメラを握っている。鉄道カメラマンの坪内政美さんだ。

「私、乗り物に弱くつてすぐ酔っちゃうんですよ」と話す。もっぱら移動は車という坪内さんの相棒は、このセダンだ。平成9年製の日産セドリックY33。わずか2500キロしか走っていないかったという中古車を購入して16年間乗り続けている。その愛車が、なんと走行距離100万キロに達したというではないか!! 「愛媛側には美しい里山の風景が、高知側には溪谷美あふれる風景があり、乗ってよし、撮って良しの最高の路線ですよ」と予土線の魅力を話す坪内さんは、長く予土線の利用促進対策協議会のアドバイザーを務めている。10年ほど前に出会った時の走行距離は、たしか44万4444キロだったと記憶している。

撮影スポットを決めると、車から颯爽と降りて、車の屋根にひよいと上がる。まさか愛車を脚立代わりに使うなんて…。「この当時の車は、フレームが頑丈なんですよ。私が乗ってもびくともしない」と強靱なボディを自慢していた。草が茂っていたり、建物があったりと撮影に障害があるときは、人馬一体ならぬ人車一体になるのだ。

「あの時は、ちょつど『よとせんとりてマップ』という小冊子を撮影してしまし



愛おしそうにエンジンを見つめる中島さん（左）と坪内さん

た。予土線の見所と、安全に誰でも手軽に撮影できる場所を盛り込んだガイドブックのようなもので、全長およそ80キロ路線をもう何回往復したことか」

多いときで年間10万キロを超える距離を走るといふ坪内さん。撮影拠点の四国から北海道へ、北海道から九州へと日本列島を駆け巡る。鉄道は、高速道路からは撮影できないので、国道や県道、ときには林道も走るといふ。

愛車のメンテナンスを任せているのが香川日産のディーラーだ。長年、整備を担当し、安全走行を第一に予防整備を心がけているという中島明巳さんは、

「この車は強いですよ。トランスミッションを2回交換したことはありませんけど、これまで一度もエンジンは交換していません。70万キロを超えた辺りから『どうせなら100万キロ目指しましょう』なんて私の方から言っていましたから、いよ



感謝状を受取り、愛車とともに記念撮影

いよ、その時が来たかと…」と、ほおを緩めた。

坪内さんは、メーターが100万キロに切り替わるその瞬間を香川日産の中島さんやスタッフの方々と共有したいと、100万キロ目前の2023年1月、車をディーラーに持ち込んだ。

車を工場内のローラーにじわりと乗せ、ゆっくりとタイヤを回転させる。数分経ってもメーターは、「999999」のまま止まっている。さては、これ以上表示できないのか?! 見守っていた一同は、すっかり拍子抜けしてしまった。

しかし、まちがいはなく100万キロに達成したとして、ディーラーから感謝状が贈られた。

感謝状を受け取った坪内さんは「一人では達成できませんでした。支えてくれたディーラーのみなさん、全国各地



坪内さんは今日もどこかで鉄道写真を撮っている

の整備スタッフなど多くの人ののおかげです」と感謝の言葉を述べた。

国鉄ツバメマークが目印の愛車は、100万キロを超えてもなお力強いエンジン音を響かせている。頼りがいのある屈強なマシン。その生命力みなぎる躍動感に惚れ惚れしてしまうほどだ。

「ここまで乗れるの分かりませんが、できるだけこの車と一緒にいたいですね。家にいるより車に乗ってる方が長いですから、もう相棒ですよ。これからもよろしくっていう感じかな」と愛車セドリックの軽快なエンジン音を残して走り去っていった。

そこに線路がある限り、坪内さんは愛車とともに現れる。ふと乗り込んだ予土線の車窓から車の屋根に登ってカメラを構えるスーツ姿の男性を見かけたら、それは紛れもなく100万キロの車とその持ち主、坪内さんである。



山下 文子 やました あやこ

宇和島市出身、鬼北町育ち。予土線沿線は、県をまたぐも「ザ・生活圈」。鉄道を始め、乗り物は何でも大好き。座右の銘は「その角を曲がれば、旅」(※永六輔氏のうけうり)。「四万十の鉄道 予土線」のホームページでコラムを担当。



坪内 政美 つぼうち まさみ

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネーター。各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぼ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている。高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー。



坪内さんが手がけた「よどせんとりてつマップ」開催中の【予土線もうすぐ50周年スタンプラリー】をコンプリートするともらえます

四万十川の鉄道よどせん



タバコ

の健康被害

50年前、日本では男性の8割以上の方がタバコを吸っていました。その後、喫煙率は徐々に下がり、現在では男性で27%、女性で8%程度です。しかし、先進国の中では高い方であり、30〜60歳代男性では未だ約3割の方が習慣的に喫煙しています。

喫煙は、様々ながんや脳卒中や虚血性心疾患などの循環器疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患、妊娠周産期の異常（早産、低出生体重児、死産、乳児死亡など）、歯周病など、さまざまな病気の原因になります。日本では喫煙に関連する病気で亡くなった人は年間12〜13万人、喫煙者の死亡リスクは非喫煙者の約2倍です。タバコ1本で寿命が5分30秒縮み、一日20本吸う喫煙者の人生は、一日が22時間。一年が11ヶ月との統計もあります。

タバコは約200種類の有害物質と約60種類の発癌物質を含む約4000種類以上の化学物質が含まれている、「毒物の缶詰」です。がんの原因の1/3はタバコが原因で、肺がんだと90%はタバコが原因です。一日に吸うタバコの本数と喫煙年数をかけ

た数を喫煙指数と言います。この数値が400を超えるると肺がんを発症する危険性が高くなり、600以上は肺がんの高度危険群です。低タールのタバコにしても、肺がんにかかるリスクは減らせないとすることも分かっています。肺がんの5年生存率はステージで変わりますが、全体では約40%です。

喫煙は、新型コロナウイルス感染症を重症化させます。喫煙者は人工呼吸器が装着される、あるいは死亡する危険性が非喫煙者の3倍以上になるとの報告もあり、また電子タバコでも重症化しやすいことが多くの研究で示されています。

喫煙者が吸う煙（主流煙）より、タバコの中から立ち昇る煙（副流煙）の方が有害物質は多く、家庭や施設などでの受動喫煙も問題になっています。日本での受動喫煙による死亡は年間1万2千人と推定されています。夫からの受動喫煙で非喫煙者の妻の肺腺がんは2倍、子供の喘息は1.5倍に増えます。また、乳児では乳幼児突然死症候群と関連があると報告されています。ニコ

ーゼーランドの調査では、家庭内での受動喫煙により非喫煙者の死亡リスクは17%増加すると報告されています。

一方で、喫煙とは「予防できる」最大の病気の原因と言われています。禁煙で、一度汚れた肺が元通り綺麗になることはありませんが、禁煙を開始して約5〜10年で、慢性気管支炎、気管支喘息などの喫煙関連疾患の発病率が非喫煙者と同程度まで下がるというわれています。

35歳〜40歳で禁煙すれば喫煙前の余命を取り戻すことができます。50歳で禁煙しても6年、60歳なら3年寿命を延ばすことができるというわれています。また、タバコは火災原因のトップでもあります。

禁煙は、いつから始めても遅すぎることはありません。どうしても止められない方の離脱症状を緩和するための禁煙補助薬もあります。喫煙を続けている方は、ご自身とご家族のためにタバコを止めましょう。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

春野菜「じゃがいも」について

新緑が芽吹く春には、野菜が生命力をたっぷり蓄えて美味しくなっています。たけのこ、ふぎ、キャベツ、たまねぎ、エンドウなど色々ありますが、宇和島で有名な春野菜といえば、遊子水荷浦の段畑でとれる馬鈴薯（じゃがいも）がその一つに挙げられるでしょう。ホクホクした食感と濃厚な味わいが特徴で、肉じゃがにしてもよし、ポテトサラダにしてもよし、その料理を格別なものにしてくれます。一度食べたら毎年必ず食べたくなくなってしまふ……そんな素晴らしい味わいを持つ野菜です。

「耕して天に至る」と形容される水荷浦地区の段畑は、「日本農村百景」や「国の



水荷浦の段畑（令和5年2月筆者撮影）



イメージ

重要文化的景観」にも選定されるほど美しい眺めです。

この段畑には、時代背景により、麦、甘藷（さつまいも）、養蚕のクワなど、様々な作物が育てられてきました。じゃがいもが栽培され始めたのは昭和20年代ごろといわれ、「たまたま購入した種芋を育ててみたところ、とても美味しく育ち、高収入が得られた」という偶然が始まりだったようです。無霜地帯（霜がおりない）であること、南向きで日照時間が長いこと、砂土壌であることなど、好条件が揃っていることが「遊子のじゃがいも」のブランド化に繋がったのでしよう。

今回は、じゃがいもの少し変わった食べ方として、「やさいもち」をご紹介します。じゃがいもをすりおろして焼くと、モチモチした食感に変わります。中の具は、季節の野菜やツナ缶など、冷蔵庫にあるものでアレンジできます。ホクホク感はないけれど、しっかりとじゃがいも本来の味を楽しめる料理です。じゃがいもは、ビタミンCやカリウムに富んだ食品なので、美肌効果や高血圧予防効果などが期待できます。

参考文献／「段畑からのことづて」著者：宮本春樹 発行所：創風社出版

やさいもち

（材料）1人分

じゃがいも	3個
ベーコン	1枚
ピーマン	1個
コーン缶	大さじ2
チーズ	20g
片栗粉	大さじ2
塩	ひとつまみ
オリーブ油	適量



（作り方）

- ①ベーコン、ピーマン、チーズは、5mm角くらいに切る。
 - ②じゃがいもは皮をむき、1～2分程度水に浸ける。すりおろしてボウルに入れる。
 - ③②のボウルに、①、片栗粉、コーン、塩を加えてよく混ぜ合わせる。
 - ④フライパンにオリーブ油を熱し、③の生地を5cm程度の円形に落とし入れて焼く。
- ※フライパンにひっつきやすいので、小さな円形にして焼く方が返しやすく、食べやすいです。



和田 広美

管理栄養士
柑橘ソムリエ
シーフードマイスター
愛媛大学地域再生マネージャー

お気楽 俳句

愛南町生まれ、宇和島東高校卒の俳人・夏井いつき組長。一年余り前に放映されたNHK「プロフェッショナル」での、言葉と向かい合う真摯な姿が大きな反響を呼びました。夏井組長の五十代以降の作品がまとめられた句集『伊月集 鶴』より数句ご紹介いたします。「言葉でしか人と人はつながらない」と信じ、「俳句という真剣な遊びに生涯をかける」夏井組長の十七音です。
(小野更紗)

― 俳句の種まきに東奔西走、喜怒哀楽の日々

春眠き目玉は砂糖漬にせん

弾丸の色に船虫疾走す

蛇泳ぐひかりの鞭として泳ぐ

秋遍路とは一列にひかるもの

木枯こがらしガム薄情な味となる

荒星のみな鳴りさうな夜の耳

― 病を得た夫への思い

摘出せる肺は蛍の匂ひして

点滴の袋を灯す緑雨の夜

夫といふ涼しきものをまぶしみて

秋風のたてがみを持つ男なり

― コロナ禍、そして希望

冷房ぬるし銃めく新型体温計

百合の香やアクリル板といふきれい

仕事なし秋のビーサンうすつぺら

青き踏みマスクを鳩として放て

― 百年先の未来へ

一本の百合のごとくに戦はぬ

百年を旅して黄落の一本

*『伊月集 鶴』(朝日出版社)より



絵：律川エレキ
1966年宇和島市生まれ
奈良市在住
2000年頃より俳句新聞
や俳句マガジン等に挿
絵を描く。映像作家

*鬼歯：外がわに向かってはえ、牙のように見える歯。八重歯

「夏井&カンパニー」
投句情報ほか



夏井いつきブログ
「いつき組日誌」



おすすめの本

ふう かん い ぶん
風珈館異聞

大早直美 著 創風社出版 刊 ¥1,760 (税込)

7篇からなる短篇集だが「風珈館」という喫茶店をめぐる一話完結であるものの、全体を通してひとつの長編小説になっている。店のマスター兄妹や常連客、アルバイトの歩美(高校生)たちの温かいおせうかいの連鎖が結果的に本人やまわりの人々を救うことになる。

タッチパネルで注文する外食チェーン店での食事や、ネットで注文したものが宅配BOXに届くような社会の中で私たちの心は閉ざされて行くような気がしてならない。

本を読み終えて、急に子どもの頃よく連れて行ってもらった「ブラジル(実家の3軒隣の喫茶店)」のママさんのココアを思い出した。優しい味だった。

大早さんは宇和島出身で松山の創風社出版(40年余りで約500冊の出版物を刊行)の経営者であり、自ら小説も書き続けられている。

協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL.0895-22-0528



まさしやくん オサワヒる 6



「おっちゃんろべんけい」、この強そうな名前は小川や側溝に住む赤みがかったカニの名前です。この面白い呼び名は宇和島独自の方言のようです。



作者プロフィール

本名/城内 章 1957年 宇和島生まれ 愛知県在住
宇和島南高等学校卒 職業/建設業
趣味/漫画イラスト作成
著書に「のらとおばあちゃんの虹」

Tosyu Hyappen

斗酒百篇



せんちゅうはっさく

船中八策 超辛口 純米酒

720ml 1,630円 1800ml 3,280円 (価格は税込)

300ml 700円

※写真は1800ml

司牡丹酒造 高知県高岡郡佐川町

坂本竜馬が船中にて考えだした策に由来。
超辛口でありながら、滑らかに味わい
膨らむ辛口の王道を歩む純米酒

さらりとしたキレは抜群！

地元高知県でも「最も土佐酒らしい辛口ならこれ！」

「カツオには、この酒が最高！」

「この酒でないとダメ！」と熱っぽく語るファンも少なくありません。

品の良いナチュラルな香りと滑らかに膨らむ味わいで、バランスの良さは食中酒としての完成度の高さをあらわしており、どんな料理と合わせても、その味わいを損なうことはありません。冷やしても常温でもお燗にしても美味しいです。

は し

土師酒店

宇和島市広小路 2-58 ☎ 0895-24-7888

営業時間：10:00～20:00 定休日：日曜日

※斗酒百篇（としゅひゃっぺん）とは たくさんの酒を飲みながら、たくさんの詩を作ること。古代中国の唐の時代、数多くの詩を作った李白のことを杜甫が『飲中八仙歌』の中で褒め称えた言葉。 題字/矢間大蔵



あなたの作品がカレンダーになる！

宇和島信用金庫 芸育プロジェクト実行委員会 カレンダー作品公募展

応募作品展

2023年7月25日(火)～30日(日)
10:00～17:00 (最終日は15:00まで)
会場：ギャラリーばれっと
展覧会期中に賞の投票を行います。
展示をご高覧いただきご投票ください。
投票期日：2023年7月26日(水)～30日(日)

作品搬入

2023年7月22日(土) 13:00～16:00
郵送による搬入は7月21日(金) 必着です

「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

- 宇和島市（本庁、津島支所、吉田支所、三間支所、中央図書館、吉田図書館、中央図書館津島分館、生涯学習センター、パフィオうわじま、市立宇和島病院、伊達博物館、畦地梅太郎記念美術館、歴史資料館）
 - きさいや広場 ●道の駅みま ●シロシタ
 - 宇和島商工会議所 ●南楽園 ●かどや(駅前本店・弁天町店・味奈味)
 - ハイウェイレストラン宇和島 ●和日輔 ●盛運汽船
 - 福DON ●岩崎書店 ●木屋旅館 ●はまゆう薬局 ●ひまわり薬局 ●JR宇和島駅 ●JR松山駅●小野商店(津島)
 - 安藤コーヒー ●べにばら画廊 ●アトリエばれっと ●香川・愛媛 せとうち旬彩館(東京) ●宇和島信用金庫各支店 他
- ※「宇和島クラブ」協賛業者 「つなぐ」の発行は、新春号(1月)、春号(4月)、夏号(7月)、秋号(10月)です。



宇和島信用金庫

— この街が好き、この街と未来を拓く —